

中学校武道授業で「合気道」を指導する外部指導者の取り組み

武道授業が日本の文化・伝統に興味を示す礎に！

学校から要請を受け、中学校武道授業で「合気道」を指導する外部指導者。今回は、これまで愛知県で数多くの武道授業を行い、現在も2校で指導を続けている尾張合気会

木田塾道場の滝本清三師範に、中学校武道授業の取り組み、また11年間にわたる経験から学んだ指導方法について寄稿していただきました。



文：尾張合気会木田塾道場
滝本清三

十四山中学校での授業
中学校の体育の授業で、合気道を指導することになったのは、平成22（2010）年10月、当時教諭だった村瀬正卓先生の口添えによるもので、愛知県南西部にある弥富市立十四山中学校でした。1か月間、全学年の武道の時間に、柔道・剣道・合気道の外部指導者要請があり、私が合気道指導の一員となったわけです。

生徒たちは、武道の体験が全くないため、まず武道場としての体育館への出入りの仕方、挨拶、正座の仕方等武道の稽古をする者としての所作から始めました。服装は道衣ではなくジャージです。前もって学校から時間割をもらい、それぞれのクラスが同じ進捗になるよう、1か月のカリキュラムを作成しました。各クラス8コマの授業でした（中学校の1コマは50分授業です）。

体育館にマットを敷き、合気道の実技に入る前に合気道について知っていることを生徒たちから聞

きつつ、合気道の概要・歴史、現在の状況を説明し、少しでも理解を深められる方向を探しました。

2コマ続きの授業で、まずは1、2限目のクラス。準備体操をしてから3つの技を指導しました。最後には座技呼吸法をし、必ず5分前に終了することを心掛けました。なぜなら授業ごとの休憩時間は10分間しかなく、着替えをして体育館から教室への移動時間等が慌し



現在も、指導を続けている美和中学校での稽古風景



アメリカ・オレゴン州のポートランド市に位置するポートランド合気会の道場

場の指導の骨格と土台を築き上げておられました。少なくとも私は、そのように身体で受け止めていました。それは、夢のような日々でした。本部道場での稽古、フランスでの稽古、アメリカでの稽古、これらは私の宝であり、今の私自身のすべてです。

指導するとは門下生の合気道の成長に責任を持つこと

——指導に関わるようになったのは、いつ、どちらの道場でしょうか。

岡本 アメリカのオレゴン州ポート

ランドに一家で引越した時です。それまでは指導のことなど一切考えたことはありませんでした。稽古ができない環境にあつて、初めて自分たちでなんとかしなくちゃ、と思いましたが。毎年必ず帰国して、本部道場に稽古にきました。この頃から、稽古だけが続いていくのも大切だけれども、自分の習ってきたことをしっかりと伝授していくこと、また、それが自分の稽古になるんだという思いが湧いてきました。

——指導を始められて、ご自身で変わったこと、新しく気づいたことなどはありましたか。

岡本 気づくことは指導しても稽古しても、毎日、毎分、消化できないほどあります。稽古、集中、探求の毎日です。しかし、責任という意味では一変しました。指導するということは、門下生の合気道の成長に責任を持たなければいけないからです。

——合気道京都を設立することになった経緯をお聞かせください。

岡本 いずれ日本に帰りたいとは思っていました。お風呂も和食も恋しくなり始めた頃、家族に不幸があ

り、一家で日本移住を決めました。夫の仕事が大阪に決まったので、帰国後、すぐに京都で稽古ができる場所を探し始めました。

——道場の方針・設立理念をお聞かせください。

岡本 日本の伝統と本部道場での合気道をしっかりと受け継ぎながらも、改革を恐れぬような稽古法、道場を築くこと。改革なくして伝統なしと常々思っています。世界の良いところはほとんど取り入れて研究したい。

合気道のすごいところは、こういった考え方、理想を打ち出して、机上の空論にしない、具現化する力があるということでしょうか。道場というところは、そういう力が集結するトポス（場所）です。

——座右の銘などありますか。

岡本 原点に還ると言う意味では「本来無一物」でしょうか。六祖慧能の禅師のお言葉です。簡単にいうと、五祖の教えを継承するにあたって、完璧な一番弟子が完璧な答えを打ち出す。それに対して、慧能が綴った偈（詩文）です。「人間はもともと何も所有などしていない、悟りなどな



専属道場の西陣道場。京都武道センター、伏見青少年活動センター、枚方市立総合体育館で指導にあたっている

い、迷いなどない、裸一貫である」と言い放った偈です。ギリギリの決断を迫られた時に言い聞かせています。

——今後の抱負をお教えください。

岡本 若い人たちにどんどん合気道の楽しさや深さを、稽古を通して経験してもらい、彼らが成長できる稽古と道場を提供することです。

私はもうこれからおばあちゃんになつていくだけです。50年後の合気道の果実を味わえないのが残念ですけれども（笑）



十四山中学校で行われた愛知県教育委員会、弥富市教育委員会の合気道授業視察

いたいという思いから、生徒たちがどんな様子なのかに気を配りました。また、実技に入る前には必ず生徒たちが興味を示す話題をなるべく合気道と結びつけて話すようにしました。
 ・ニコリ笑顔で合気道をしましょう。
 が目標です。お陰様で後日学校側からいただいた生徒たちの感想文には「話が面白かった」「授業が楽しくて、時間があつという間に過ぎた」「合気道の興味が深まった」等、嬉しい事柄が並びました。

く、次の授業に向う体制が整わないと思われたからです。続いて3、4限目のクラス。前のクラスと同じ進行速度になるように気をつけながら進めました。4時限で全員に指導ができたのは都合が良かったと思います。その後、給食をいただいで帰宅します。

授業の工夫

楽しく合気道に取り組んでもら

技は基本技を中心に行いました。
 1日目、片手取り第一教、正面打ち入身投げ、両手取り天地投げ、座技呼吸法。
 2日目、後取り第一教、座技正面打ち第一教、横面打ち第一教。
 第一教でも打ち方、立ち方等によって体捌きが異なることを理解できる稽古をしました。
 この基本技の繰返しを軸とし、

第二教、第三教、第四教の痛みを伴う技も取り入れながら、他人を攻撃することのみに合気道を使わない意識を伝えました。相手とともに自分を磨く合気道の理念は永遠であり、私にとっても大切なものです。そのうえでケガをしない、させないことも大切と考えながら指導しました。

授業の手応え

7年前に担当した生徒が、現在大学生や社会人になっており、大学の部活動や一般の道場で稽古を続けていることを聞くと嬉しくなっています。健康や護身術など目的はそれぞれですが、合気道に魅力を感じて稽古を続けているでしょう。一人でも合気道を続けてくれる教え子がいれば、指導者としてこのうえもない幸せを感じます。

いつもは校長室で給食をご馳走になるのですが、生徒たちからの誘いで、時々教室に招かれて給食の時間を一緒に過ごします。給食を一緒にしたことは、より親密な

関係が築けたと思われ、大変有意義な時間を有したと言わざるを得ません。また、稽古の最終日には卒業記念に行うパフォーマンスを披露してくれたことがあり、大変嬉しかったことを覚えています。
 愛知県教育委員会からの要請で、県教育委員会・弥富市教育委員会、他校の校長先生らたくさんの方々が視察に来られたこともあり、十四山中学校の先生方は緊張されていました。生徒たちは意識することなく、いつもどおり、のびのびと楽しい授業を展開してくれました。日頃の雰囲気伝わって、満足できた授業であったと思います。

ある年には、台湾の合気道推廣訓練協進會の呂承榮先生が来名の折、授業に参加して下さったり、イギリスのハナ女史、マイク・ヒギンス氏が来日の折に参加して下さったり。合気道が世界で修業されていることを伝えられて、良かったと思っています。また、生徒が英語を介しての交流で自信を得たこともプラスでした。

美和中学校での授業

7年前からは地元のみあ市立美和中学校での指導が始まりました。2年生の女子生徒が対象です。2クラス合同で1時限目から4時限目に授業を行う時間割を組みました。

内容は前述の十四山中学校での授業を基盤として進めました。服装はジャージ。初めに合気道の概要、植芝盛平開祖、二代道主吉祥丸先生、現道主守央先生の話等、実技の前に知識として知っておいてもらいたい事柄を伝えました。

昨年4月に赴任された校長先生はご自身が学生時代、日本拳法の有段者として活躍されていたこと、もあって合気道にも非常に興味を持っておられ、自ら拳法の道衣を着て3時間稽古に参加されました。授業後、「久しぶりに良い汗をかいた。今日の給食は格別に美味しい」と言っておられた爽やかな顔が思い出されます。第二教の見取りでは、校長先生に受けを取っていたら、裏を極めた時、痛い

と声を上げるわけにもいかず我慢されている表情に、生徒も笑いをこらえている様子でした。これで

また、校長先生と生徒の距離がグッと縮まった気がしました。最後の週は、学んだ技をテスト風に出题して、皆の前で披露しました。生徒たちは真剣で真面目に発表し、4回と少ない稽古時間ではありましたが、やればできるものだと感じられる内容に生徒たちの能力の高さを改めて認識させられました。授業を終えるにあたり

て、今まで教えた技を含めながら私の自由技の演武で締めくくりました。自由自在な動きからいろいろな技がでたり、身体のしなやかさから動きが生まれたり、無限に広がる可能性を感じてもらいたいとの考えからです。

美和中学校では、私も「学校運営協議会」の一員となっており、他のメンバーから「正課の授業で合気道を取り入れているのは名古屋地区では少ないよね」と言われると誇らしい気持ちになります。

授業を通して感じたこと

コロナ禍が始まる一昨年までは、蟹江北中、弥富中、飛鳥中、佐屋中、立田中に向っていました。現在は、十四山中学校と美和中学校の2校のみです。徹底的に感染予防をしたうえで、これからの授業に臨みたいと考えています。

最後に中学校で指導し感じたことを述べたいと思います。

- ・合気道独特の動きは、教師・生徒たちには新鮮に映り、興味が増す。
- ・身のこなしが綺麗なので女子も抵抗感なく、すんなりと武道授業に入る事ができた。
- ・腕力だけで力まかせに掴む男子にとつて第二教の極めは驚きの感覚のようであった。
- ・目に見える強さと目に見えない強さの存在を生徒たちなりに体得



一昨年まで指導していた蟹江北中学校での稽古風景